



政治って何だ？

犬山中生考える

市長交えワークショップ

犬山市木津の犬山中学校は十五日、政治や選挙を他人任せにしない生徒を育てようと、山田拓郎市長を交えて主権者教育ワークショップを体育館で開いた。

約二百二十人の三年生を対象に、社会科の地方自治学習のまとめとして企画した。総務省の主権者教育アドバイザーで、名古屋経済法学部の高橋勝也准教授が進行役となり、「政治とはいろんな人にいろんな考えがあり、それをうまく調整すること。対立ではなくバランスを取る」と分かりやすく定義した。

政治参加の第一歩として「どんな犬山市をつくりたいか」を考え、山田市長に意見をぶつけた。八人の生徒が「企業を増やし、もっと税収を」「おじいさん、おばあさんには危ないガタガタ道を直し、もっと街灯を」などと直言した。

「税金が高い。使途を明確に」という意見に対し、

山田市長は、市民税の税率

が全国ほとんど同じであること、犬山市の水道料が安いことなどを説明し、負担の比較は簡単ではないと説明。「税金をちゃんと使い、皆さんと共有することがとても大事。しっかり頑張っていく」と述べた。

高橋さんはまちの将来を考えることも政治参加の一つだと解説し、「忙しくても選挙にだけは行ってください」と未来の有権者に呼び掛けた。

(三田村泰和)